

しゅうなんブランド見直し案 整理表

見直しパターン		対象商品	選考方法・選考基準	デメリット・懸念事項 (第1回委員意見)	懸念事項の整理	検討結果	
		イメージ					
①	【 現行改良型 】 従来より厳しい基準で協議会が選考を行う。 既存の認定品については、精査を行いグレード分けを実施する。 【 基準をクリアしたものは全て 】	日常食品 お土産品 贈答品・特別な日用	(選考)協議会 従来より厳しい基準	・現行の「しゅうなんブランド」制度とあまり変わらず、収入拡大に繋がらない可能性がある ・絞り込みを厳しくしないと形骸化する可能性がある	客観的な選考基準を設け、厳選して認定できる仕組みができるのであれば可能。	現在の審査基準を元に客観的な指標の検討を行ったが、厳選して認定するための選考基準を設けることは難易度が高い。 他自治体の審査基準においても客観的な基準を設定しているものはない。	△
②	【 市民投票型 】 市民による試食会を一次選考とし、協議会の二次選考を経て決定する。 【 各1品 】	日常食品 お土産品 贈答品・特別な日用	(一次選考)市民の試食会 (二次選考)協議会	・実際にターゲットになる人に参加してもらったほうがよい ・各1品は少ない ・協議会で二次選考をする時の基準が難しい ・試食会は会場の選定が難しく、時間と手間がかかる ・市民にとって商品の比較が難しいのではないか	投票者の枠組みを設けるか、項目の内容をどうするかなど運用面で検討していく事項がある。	募集商品の枠組みと投票者の枠組みを平行して検討していくことで解決が可能。 募集商品の枠組みを決めるのであれば、投票者の枠組みを決めることが有効である。 募集商品の枠組みを決めないのであれば、投票者の枠組みを決める必要性はない。	○
③	【 共同開発型 】 協議会による選考後、協議会と事業者によるブラッシュアップをして商品化を行う。 【 各1品 】	日常食品 お土産品 贈答品・特別な日用	(選考)協議会	・販路開拓、商品開発のアドバイザーが必要と考えるが、人材確保が難しい ・共同開発(ブラッシュアップ)にかかる経費を持つのであればある程度費用が発生する ・事業者への事前周知(募集の仕方)が難しい ・事業者と協議会の目的・狙いのギャップが生じる恐れがある	人材確保ができたとしても、商品に対する開発者の考えと協議会の考えにギャップが生じる恐れあり。	ブラッシュアップに要する期間が企業のスピード感にそぐわないケースが生じる可能性が高い。 応募から売り出しまでスケジュール的に対応可能な商品を対象とすればよいが、応募商品が出てこない恐れがある。	×
④	【 市民投票型 】+【 共同開発型 】 グループ案(1班) 案2+案3 協議会(市民)を中心とした一次選考とし、2次選考では、プランナーに支援依頼をし商品のブラッシュアップを行う。	未定	(一次選考) 協議会・(市民) (二次選考) プランナーに支援依頼	・販路開拓、商品開発のアドバイザーが必要と考えるが、人材確保が難しい ・共同開発(ブラッシュアップ)にかかる経費を持つのであればある程度費用が発生する ・事業者への事前周知(募集の仕方)が難しい ・事業者と協議会の目的・狙いのギャップが生じる恐れがある	投票者の枠組みを設けるか、項目の内容をどうするかなど運用面で検討していく事項がある。 人材確保ができたとしても、商品に対する開発者の考えと協議会の考えにギャップが生じる恐れあり。	ブラッシュアップに要する期間が企業のスピード感にそぐわないケースが生じる可能性が高い。 応募から売り出しまでスケジュール的に対応可能な商品を対象とすればよいが、応募商品が出てこない恐れがある。	△
⑤	【 市民投票型 】 グループ案(2班) 案2 協議会の選定後、二次選考を市民投票を経て決定する。 【 各3品程度 】	日常食品 お土産品 贈答品・特別な日用	(一次選考)協議会 従来と同程度の基準 (二次選考)市民の試食会等	・試食会は会場の選定が難しく、時間と手間がかかる ・市民にとって商品の比較が難しいのではないか ・投票者の枠組みをどうするか	投票者の枠組みを設けるか、項目の内容をどうするかなど運用面で検討していく事項がある。	募集商品の枠組みと投票者の枠組みを平行して検討していくことで解決が可能。 募集商品の枠組みを決めるのであれば、投票者の枠組みを決めることが有効である。 募集商品の枠組みを決めないのであれば、投票者の枠組みを決める必要性はない。	○
⑥	【 現行改良型 】+【 市民投票型 】 グループ案(3班) 案1+案2 現行よりも厳しい基準で協議会で選定を決定する。さらに選定商品の中から市民投票を実施しグレードを分けた2段階の構成とする。	日常食品 お土産品	(一次選考) 協議会 従来より厳しい基準 (二次選考) 市民投票 一次選考で認定したものの中からハイブランドのようなものの認定を行う	・絞り込みを厳しくしないと形骸化する可能性がある ・試食会は会場の選定が難しく、時間と手間がかかる ・市民にとって商品の比較が難しいのではないか ・投票者の枠組みをどうするか	客観的な選考基準を設け、厳選して認定できる仕組みができるのであれば可能。 投票者の枠組みを設けるか、項目の内容をどうするかなど運用面で検討していく事項はある。	厳選して認定するための選考基準を設けることは難易度が高い。 一次選考で認定されたもの、二次選考で認定されたものが2階層に分かれ、さらに現行のしゅうなんブランドを地産地消の目的で残す予定であるため市民から見てわかりづらい。	△